

平成 25 年 3 月 8 日

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革
事業代表 徳島文理大学学長 桐野 豊殿

徳島県薬剤師協会会長
評価委員会議長
元木 宏

提言書

H25 年 3 月 6 日に、徳島文理大学薬学部において、32 名の評価委員と 4 名の評価委員代理が出席し、評価委員会（AB 合同）が開催された。事業代表の徳島文理大学 桐野学長から事業説明と H24 年度の事業成果の報告があった。その後、本事業を進めるための活発な議論が行われた。議論の内容を参考にして以下の事を提言する。

四国は、全国でも高齢化率が高い地域である。四国の薬学部においては、国立・私立の別なく各大学等の力を結集し、高齢者医療、へき地医療への貢献や在宅医療の推進など、地域における先導的な役割を果たす実践的な薬学教育のモデルを構築し、地域に貢献する質の高い薬剤師を養成することが望まれてきた。この度の連携取組においては、以上の課題を解決するため、患者サイドに立った個々の患者の状況に対応できるコミュニケーション能力の高い薬剤師の育成、質の高い豊かな常識のある薬剤師の育成、そして地域に密着した保健衛生の担い手としての薬剤師を育成する事を期待する。

四国の 4 薬学部が連携して学部・大学院教育・研究を実施することは、地域医療からの要望に応えた薬剤師の養成や現職薬剤師の質的な向上に大きく寄与するとともに、先進の施設と優秀な教員をシンクタンクという貴重な財産として有することとなり、四国の抱える課題を解決するために本事業が大きな力になるものと強く期待をしている。また、この取組を通じて、3 大学 4 薬学部を卒業した薬学部生が四国のみならず我が国の保健・医療・福祉の向上に大きく貢献することを期待する。本事業は大学関係者だけではなく、地域の薬剤師会、自治体、教育関係者、地域の NPO 法人などとの連携を強め、事業を推進する事を願っている。評価委員会としても、積極的に地域の要望を事業関係者に伝えるとともに、4 薬学部と連携協力して事業成果を地域に還元して行きたいと考えている。